

## S M公開講座 「支配と服従」

S Mの世界には人それぞれに考え方が違うように実に様々な嗜好があります。

本講座ではS Mプレイを中心とした直接的な行為ではなく、「心」を重要な問題として捉える

「支配と服従」( D S : Domination & Submission ) について探求していきます。

§ 1 支配と服従の基礎知識

§ 2 支配の心得え

§ 3 服従の心得え

§ 4 奴隷の縛り方

§ 5 いくつかの境界線 奴隷版

§ 6 いくつかの境界線 ご主人様版

§ 7 発想の転換

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

## S M公開講座 「支配と服従」

### § 1 支配と服従の基礎知識

ある程度の経験を積まれた S a d i s t の方にはおわかりだと思いますが、「服従」を望む M 女性の多くは日常生活の自分と内面の M 性のバランスを自分自身でコントロールすることができません。

自分では気が付かないうちに自分自身を苛めているのです。

無意識のうちに自分を追い込んだり、自分を傷つけるような行動を取ったりした経験が必ずあるはずです。

M 女性には、このような「自己破壊願望」がひそんでいることを理解してください。

よせばいいのに無理な仕事を引き受けてしまったり、他人からは吃驚するような大胆な行動や決断をするのもこの願望の現れなのです。

こういう M 女性は、いつも暇そうにボーッと時を過ごしていることがなく、常に忙しそうに動き回っています。

周りの人からは行動的で積極的な責任感の溢れる女性に見えるんですね。

パニックにならない程度で済んでいるうちはまだいいのですが、心のバランスが大きく崩れてくると自分自身に刃を向けてしまうことの恐ろしさを本能的にはわかっていますが、自分は一人で生きていける強い人間になりたいと思っているのでなかなかそれを納得することができません。

M 女性が S M の世界を知って惹かれていくのは、不安定な自分をコントロールしてもらいたいという本能なんだということが理解していただけるでしょうか。

肉体的に苛められることで快感を得るためだけの S M ではなく、ご主人様の奴隷として飼われたいと願うのは絶対的な「支配」によって自分を守ってもらいたいという本能的な欲求なのです。

さて、次はS男性の番ですね。

安心してください。「支配と服従」の感覚を最初から持つS男性なんてまずほとんどいませんから。

経験を重ねてS Mを知りM女性というものを知り、ただプレイするだけではなくM女性を自分の理想の奴隷に育てたいと願う気持ちが「支配と服従」の感覚を生み出していきます。

「支配」を望むS男性は奴隷を征服するのではなく所有することに自分の心の安定を求めます。

もっと極端に言えば自分の身体の一部として取り込みたいほどの所有欲ということです。

当然「支配」は調教の時だけでなく日常生活にも求め奴隷が常に自分の所有物であることを意識するように育てていきます。

それを実現するためにはM女性の心を把握してきちんとコントロールしてあげなければなりません。

そのためには奴隷の中のMとしての部分だけでなく、その存在すべてに愛情を注ぎ導いてあげることが必要ですね。

調教を通してご主人様の存在そのものがどれほど必要なのかということを奴隷に教えたいと思うS男性は、もう「支配と服従」の世界の住人です。

S男性の中にはM女性から次のような質問をされたことのある人がいると思います。

「奴隷としての調教が終わってしまったら私は捨てられてしまうんですか・・・」

M女性の心のバランスを上手にコントロールしてもらうために「支配」を受け入れ、「服従」によって自分自身のすべてを委ねることができるようになるための調教ですから、一通りのプレイがこなせるようにするための調教とはまるで違うということはもうおわかりいた

だけだと思いますが、M女性が立派な奴隷として成長してからが真の「支配と服従」が始まるのです。

淫乱な奴隷に仕立てあげる課程が楽しいご主人様なら調教の終わった奴隷を捨てることもあるでしょうが、「支配と服従」を目指すご主人様なら奴隷を手放すということは自分の心臓を抉り出すのと同じようなものだとお考えください。

レディスコミックやSM小説のように羞恥と屈辱にまみれた快樂だけがお望みであれば、「支配と服従」の世界とは無縁だと思っていただいて結構です。

ご自分が持って生まれたSやMの心を素直に認めていくのはとても勇気のいることですが、この講座が本当の自分を見つめるためのきっかけになることを願い、「支配と服従」の世界をご理解いただきたいと思います。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

## S M公開講座 「支配と服従」

### § 2 支配の心得え

#### < 奴隷の飼い方 >

S a d i s t が自分の奴隷が欲しいと思うのは至極当然の欲求ですね。  
では、自分はずなぜ奴隷が欲しいのか考えたことはありますか。

自由を剥奪されたMに屈辱を与えるのはSだけが得られる快感ですね。  
服従させられる時の眼や表情は永遠の美の極致だと思います。

でも、それだけならS Mクラブでもいいじゃないですか。  
いつでも好きなときに呼び出して虐められるしお金がかからないから。

自分の好き勝手にできて命令すれば何でも言うことを聞く都合のいい女が欲しいと思って  
いるだけなら、ご自分をS a d i s t と思うのをやめましょう。

それでも、人格を剥奪した感情を持たない性交人形をお望みならそれはそれでいいでしょ  
う。  
そういうS Mもあるんですから。

しかし、「支配と服従」の世界を目指すのであればもう少し考えてみてください。  
奴隷を飼うということは奴隷のすべてを支配するということです。  
ということは奴隷が生きていくことのすべてを管理する責任があるのです。  
奴隷にすべてを捧げて服従することを誓わせるというのはそういうことだと思ってくださ  
い。  
「支配と服従」の世界では、奴隷を飼うということは奴隷を管理するということなのがお  
わかりいただけだと思います。

では、どのように奴隷を管理するのか、といたいところですが、そんなことをお教えす  
るつもりはありません。これから奴隷を飼いたいと思っている方が、ご主人様として自分  
で考え、自分のスタイルで飼うために、参考にしてもらいたいことをあげてみます。

人それぞれ考え方が違うのですから、自分はどんなご主人様になりたいのか、よく考えて  
みてください。

< M女性と奴隷の違い >

自分の目の前にいる女性がMだとわかっているのであれば、すぐにでも奴隷にできると思っていないですか。

どのような出会いであるにせよ、自分の奴隷になる誓いをたてるまではM女性はただ単に相手がMだということを知っている女性に過ぎないのです。

自分の考える奴隷として相応しいかどうかよく観察しなければなりません。

あくまでも選ぶ権利はSにあるわけですが、M女性ならなんでもいいという態度では困りますね。

奴隷にすると決めたときに、ご主人様に相応しい奴隷になれるM女として選んでもらえたんだということを自覚させるにはそれなりの態度でM女性に接しなければならないのです。

私のご主人様はM女性なら誰にでも手を出すような方ではないという安心感、また、そういうご主人様に自分は選んでいただいたのだという自負心が、強い信頼につながることをお忘れなく。

初めて会うのに、頭の中は調教のことでいっぱい、ついでに鞆の中も道具でいっぱいでは、いつまでたっても「支配と服従」は遠い世界なのです。

< 奴隷は貞淑に >

M女性はどうしてもないほど淫乱な生き物、また、そのように育てるのが調教だと思っていないですか。

間違いだとはいいませんが、あくまでもご主人様に対してだけであることをお忘れなく。

指一本触れなくてもご主人様のそばにただで感じてしまうほどの奴隷に育て上げたいのなら、淫乱にではなく、貞淑に躡けなければなりません。

なんだか矛盾してますか？

つまり、ご主人様の前にいるとき以外は貞淑なレディでなければならない、またそういう女性に育てるのが、ご主人様の役目であるということです。

普段の生活とMとしての自分を大きな落差で切り換えさせるのは、ご主人様の大切な役目なのですよ。

ぜひ、どこに出しても恥ずかしくない素敵なレディに育ててあげてください。

< 奴隷はご主人様だけのもの >

いまさら何を言い出すのか、ですね。

奴隷は身も心も捧げて服従するのですから。

でも、ご主人様はその服従に応えられる人間でなければならないとは思いませんか。

ただ虐めることが好きなだけの中身のない薄っぺらな人間では、奴隷が心から尊敬し信頼して、愛情を捧げることなどできないのですよ。

奴隷の服従に足るご主人様として常に自分を磨くことをお忘れなく。

奴隷が飼ってもらえていることを誇りに思えるようなご主人様になっていただきたいのです。

個人的な意見としては、今まで何人の奴隷を飼ったことがあるとか、どんなプレイが得意だとか、自慢げに披露するような軽薄なことはしないでいただきたいのです。

経験が豊富であることよりも奴隷にとってはご主人様が唯一無二の存在であることの方が大切なのですから。

< 支配の心得え >

ここまでをお読みになってなんだかやる気の失せてしまった方は別として、多少なりとも共感を抱かれた方は「支配」する側の人間としての資格があると思います。

奴隷を飼うということは人間を育てるということです。

§ 1でお話ししたとおり、M女性は自分を持て余すほど不安定でデリケートな生き物であるからこそ主人様の「支配」を望んでいるのです。

けして、おとなしいからなんでも命令に従ってしまうわけではありません。

泣く、怒る、すねる、わがまま、どれをとってもノーマルな女性以上です。

どのように育てどのように飼っていくかはご主人様යි。

しっかりとした考えを持ち、S Mごっこになってしまわないように。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

## S M公開講座 「支配と服従」

### § 3 服従の心得え

<なぜご主人様が必要か>

実際には、自分がMだと思っている女性って以外と多いんですよ。  
縛られてみたいとか虐められたいとか、いろいろですけどね。

でも、自分が本当にMなのか考えたことがありますか。

S Mに興味を持ち、ご主人様とか奴隷という言葉を見つけて、そういう世界があるんだな  
と思い、なんとなく憧れを持った人、合格です。

では、なぜ憧れるんでしょうか。

自分で答えを見つけるのは至難の業でしょうね。  
それを教えてくれるのはご主人様の役目ですから。

しかし、それでは講義が終わってしまいますからもう少し進めてみましょう。

ご主人様と奴隷の関係、つまり主従関係になにか満たされるものを求めているのではない  
ですか。

虐められたい辱められたいという以上に服従したいという気持ちがあるはずですよ。

では、なぜ服従したいのでしょうか。

時として不安定になる自分が嫌いで、そんな自分を他人に見せたくない。  
でも自分ではどうしようもないから、そんな自分を誰かに委ねてしまいたい。  
自然に甘えたり頼ったりできる人がいればいいんだけど、それが素直にできるくらいなら  
服従したいなんて思わないんですよ。

服従することしか許されない関係なら、素直になれるかもしれないと心のどこかで思っ  
ているんです。

自分が本当に自分らしく生きるには服従すること、つまりご主人様が必要なんです。

< 支配されることと服従することの違い >

支配されるということは、強制的に従わされることです。

服従するということは、自ら進んで奉仕することです。

言葉だけの問題ではなく心の持ち方としてよく考えてほしいことです。

どんな調教でも、命令だから従わなければいけないと思うと、どこかにためらいが生まれます。

ただ命令を待っているだけの奴隷と、ご主人様が何を求めているのかを一生懸命に考えている奴隷では大きな違いがあることがわかるでしょう。

何かしてもらえるのを求めるのではなく、何をしてあげることができるのかを考えてください。

どんな些細なことであっても、それをご主人様にさせてもらえることが嬉しいと感じたときに初めて服従するということが理解できるのです。

< ご主人様はただ一人 >

ご主人様というのは後にも先にもただ一人しかいないということを覚えておいてください。

過去にご主人様と呼んだことがあったとしても、けして「前のご主人様」という表現は避けていただきたいのです。

いろいろな経験があったとしても、それは本当のご主人様に巡り会うための準備だったのであり、これからさき他の方をご主人様とお呼びすることはありえない。

「ご主人様」と呼ぶのはそのくらいの覚悟でいてください。

けして軽々しく口にするべき言葉ではないのですから。

奴隷として「ご主人様」と呼ぶことに、Mの誇りを持ってもらいたいです。

S男性には、ただでさえ高いM女性のプライドに火をつけるなどお叱りを受けそうですが、ご主人様と呼ぶことがいかに重要なことなのかを理解していただきたいので、敢えていわせていただきます。

<変わっていく自分>

ご主人様の調教を受けて奴隷はどのように変わっていくのでしょうか。

そんなことはご主人様が決めることで、奴隷の考えることじゃないのでしょうか。

ご主人様のお好みの服装や髪型やメイクにいたるまで命令されるのは当たり前のことです。

ただそれだけでは「支配と服従」には不十分です。

普段の生活においても、ご主人様の奴隷として恥ずかしくない人間として行動しなければなりません。

言葉遣い、立ち居振る舞い、物の考え方、素敵な女性として認められることは自分自身のためではなくすべてご主人様のため。

ご主人様に相応しい女性として自分を磨いてください。

今までなら爆発していたようなことでも、こんなことで感情的になったのではご主人様の奴隷として相応しくないと考えるようになれば、ご主人様の大切さが実感できるでしょう。

< 服従の心得え >

ここまでをお読みになって、自分が普通の人より淫乱で普通のSEXでは物足りないからなんていう人は別にして、多少なりとも共感を抱かれた方は「服従」する側の人間としての資格があると思います。

「支配と服従」について考え、どんなご主人様が自分に必要なのかを考えてください。

S Mプレイの嗜好も大切なことではありますが、それ以上に大切なこともあることをお忘れなく。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

## S M公開講座 「支配と服従」

### § 4 奴隷の縛り方

さて、あなたはどんな縛り方が好きですか。

S M雑誌を見ながら、今度はこんな風に縛ろうかななんて考えるのも楽しいですね。

麻縄にしましょうか、それとも木綿のロープにしましょうか。

でも、あなたの大切な奴隷を心の縄で縛ってみたいとは思いませんか。

けして解けないようにしっかりと縛ってあげてください。

雑誌を見て縛り方を勉強する必要などありません。

縛り方はあなたの自由です。

そして、自分の縛り方に自信を持ってください。

あなたの掛ける心の縄は、奴隷に屈辱を与えるためのものではありません。

奴隷の不安を取り除き、心を解放してあげるためのものなのです。

そのためには、目に見えない心の縄で縛ってあることを奴隷によく教え込まなければなりません。

心の縄で縛られているかぎり、常にご主人様が見守っているのです。

結び目が緩まないように、ご主人様の所有物として恥ずかしくない生き方をしなければなりません。

けして痕は残らないし痺れることもないけれど、一度縛ったら二度と解くことはないのだということも教えてあげてください。

突然ですがこれから問題を出します。

M女性が奴隷として飼われるようになると、とても安心できるようになるのも事実ですが、奴隷であるが故の不安も出てきます。

さあいったいどんな時にどんな不安を感じると思いますか。

あなたのご主人様と呼ばれるようになれば必ず直面する問題ですから真剣に考えてみてください。

最低でも五つ以上をあげ、それに対してご主人様としてどう対処するかも考えてください。

「支配と服従」を目指すのであれば、奴隷の分際で不安を抱くなんてとんでもない、なんていうのは解答にはなりませんよ。

奴隷が心に抱いている不安をご主人様に打ち明けるのはとても勇気のいることですし、ギリギリまで追い込まれたときだと思っていた方がいいのです。

むしろ、口にできないことの方がはるかに多いはずです。

事前にそれを感じ取り、いい方向に導いてあげるのはご主人様の大切な役目なのです。

奴隷が何を感じ何を思っているのかしっかりと把握できるご主人様になってください。

奴隷を縛った心の縄のもう一端はご主人様の心に繋がっていることをお忘れなく。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

S M公開講座 「支配と服従」

§ 5 いくつかの境界線 奴隷版

今回は、主従関係を結んでからしばらくすると経験するであろう心の境界線について考えていただきたいと思います。

まず、奴隷の側について考えてみましょう。

ご主人様に服従する奴隷にとっては境界線などというものがあってはならないはずなのですが、奴隷であるが故に存在する境界線というものがあります。

< その1 本当の自分を出す >

心から服従する奴隷になるためにはご主人様の前では本当の自分を出さなければなりませんし、またそのようにご主人様から命令されるはずです。

さて、困りましたね。

本当の自分を出すってどうすればいいのでしょうか。

わがままで寂しがりやで泣き虫で、そんな自分をさらけだしてしまったらきっとご主人様を困らせてしまう、いえ、その前に嫌われてしまう。

そんな風に思ったあなた、ちょっと意味を取り違えているようです。

自分のすべてを受け入れてくれると信じているご主人様に、素直にありのままの自分を受け入れてもらうことが、「本当の自分を出す」ということなのです。

「本当の自分」の悪いところは叱ってくれ、良いところは誉めてくれるでしょう。そしてより良い自分に作り変えてもらうために調教を受けるのですから。

ところが、この境界線を乗り越えるのはけっこうしんどいものなんですね。

肉体的な調教であれば羞恥や苦痛を抑えて従順になれても、ご主人様の前で素直な気持ちになれるかどうかは意識の問題ですから。

それを解決するために、ごく初歩的な段階としての目標をたててみましょう。

まず、他愛もない日常の出来事をご主人様に報告する習慣をつけてください。

そのうちに、ご主人様には報告しにくいことも出てくるはずです。

心配を掛けてしまうとか、理由は様々でしょうが。

でもそんなとき、「だからこそご主人様にご報告しなくちゃ」と素直に思えれば第一関門は無事に突破できたわけです。

当然の話ではありますが、ご主人様に対して隠し事や嘘なんてあってはならないことですが、何の躊躇もなく素直に感じるかどうかポイントですね。

このようにして少しずつ自分が変わっていく、いえ、変えていただけていくことに大きな喜びを感じられることと思います。

けして自分の心を押し殺すことが服従だなんていう思い違いはしないでください。

<その2 何もしてあげられない>

あなたのご主人様が「支配と服従」を理解されている方ならば、あなたが生きていく上で大きな影響を受けるはずです。

他の誰からも得ることのできない色々なものをたくさんいただけることだと思います。

もちろんプレゼントのことじゃありませんよ。

そのうれしさを噛み締めていると、ひょっこり顔を出すのが私はご主人様に何もして差し上げられないという気持ちです。

これは、ご主人様の存在が大きくなればなるほど気になってきます。

でも何かしてあげたいと思えば思うほど何をすればいいのかわからなくなるんじゃないですか？

さてと、この境界線の突破はけっこう簡単です。

なぜかといえば、答が一つしかないからです。

それでは解決方法を伝授しましょう。

あなたは何もする必要はありません。

そんなの答にならないじゃない！と思われませんか？

ご主人様はそんなことを望んでいないのですから、何もする必要がないというのが正解なんです。

もし、それではあなたの気持ちが収まらないのなら、あなたが授けてもらったご主人様の素晴らしさの数々にあなたの心と身体のすべてで喜びを表現してください。

ご主人様と出会えたこと、飼っていただいていること、ご主人様なしでは生きていく意味がないこと、表現方法はお任せしますが、きっとご主人様には喜んでいただけるとおもいます。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

## S M公開講座 「支配と服従」

### §6 いくつかの境界線 ご主人様版

さて次はご主人様の側について考えてみましょう。

本来、奴隷との間は一線を画すものであって、境界線などあって当たり前。

もちろんそうだと思います。

しかし、「支配と服従」を目指す若葉マークのご主人様には大いに悩む境界線があるのです。

そして、時としてこの境界線が乗り越えられずに主従関係に破綻のおきることさえあるのです。

#### <その1 加虐と愛情のバランス>

これまでの講義を読まれた方なら「支配」がただ単に屈辱的な服従を強いることではないこと、さらに調教が単なる精神的肉体的な加虐に留まらず、もっと広義の意味を含むことも理解されたと思います。

「支配」の根底にあるのが愛情であり、調教ですら愛情と切り離して考えるべきではないのです。

しかし、いざ実際に主従関係を結び調教を始めていくと、調教中の厳しさと調教を終えた後の優しさに落差をつけようとする意識が出てきます。

奴隷に愛情を注ぐのは甘えさせてあげる時なのだから、それ以外の時は抑えなければならぬと考えてしまうかもしれません。

ほら、自分で勝手に境界線を引いているんです。

そして、加虐と愛情のバランスを取ろうとするあまり、奴隷に甘く、さらに自分にも甘くなってしまうという過ちを犯してしまいがちです。

ところがどっこい、「服従」をわきまえた奴隷はいくら甘えられる時であってもご主人様にたいする基本的な態度は何の変化もないのです。

奴隷にとってはご主人様は常に大きな存在であって欲しいのですから履き違えたバランスは無用の長物なのです。

もし奴隷がそれに気がつかないのであれば、きちんと躄をするのはご主人様の役目ですね。

### <その2 大いなるマンネリ>

初めて奴隷を手にしたご主人様なら、いままで思い描いていた調教を一気に爆発させたいと思うのは無理もないことでしょう。

道具を揃えて、数々の責めを考えることが間違いだなどとは口が裂けてもいえませんが、そればかりでは長くは続きませんよ。

どんな風に奴隷を育てていくのかは調教しながら考えるんだ、なんて考えているとその内なにをしていいかわからなくなってしまいます。

調教のマンネリ化という大きな境界線が待っているのです。

さて、この境界線をどうやって克服しましょうか。

その答えは、最初の心掛け次第とおきましょう。

まず、M女性なら誰でもいいから調教したいなんていう人にはできない相談ですが、奴隷をどのように育てるか、その期待に応えられるM女性なのかを見極めるまでは主従関係を結ぶべきではないのです。

たとえ相手がどんなに望もうと、しっかりと主従関係を結ぶまではプレイするつもりはないと言い渡すくらいの心の余裕が欲しいですね。

そして、主従関係を結んでからもゆっくりと「支配」を作り上げていくことです。

たとえ道具を使わなくても、いえ、たとえ触れることすらしなくても「支配」は成り立つのです。

それが出来上がってからが本当の「支配と服従」なのですから。

最初から大いなるマンネリを目指してください。

**KARMA**

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)

## S M公開講座 「支配と服従」

### § 7 発想の転換

「SはサービスのS、MはマンゾクのM」という言葉をどこかでお聞きになったことがありますか？

すべての行為はMを満足させるための手段であり、それを求め続けずにはいられなくすることでMを支配する。

SはMに肉体的な快楽を与え征服することが役目でありそれが無上の悦びであり、Mはそれを従順に受け入れて陶酔の世界に浸ることを享受する。

確かにその通りだ、と思う方は多いでしょう。

ノーマルな人たちから見たS Mの世界ではこのようなことすら想像の外にあるでしょうから、多少なりともS Mの世界に身を委ねた方でなければ納得することすらできないと思います。

もちろん立派にS Mしてるわけですから、全面的に否定するわけではありません。

しかし、これでは行為を中心にしたS Mゴッコでしかないことに気付いていただきたいのです。

Sの側でいえば、苦痛や恥辱を含めた行為を受け入れさせ、そこから快楽を引き出すことは当然の義務であり、また権利でもあるわけです。

そしてさらにその上に従順に従わせること、さらにまたその上に従順に従うことに悦びを感じさせることが重要なポイントになるわけです。

マゾヒストとしてのオルガスムを引き出すことだけに熱中しているようでは、真の「支配」は遙かに遠い世界の夢物語なのです。

Mの側でいえば、Mとしての自分を肉体的に解放してもらうことはSを求める大きな理由でありMであることの要因でもあるわけです。

ですが、それだけに留まらずご主人様とお呼びする存在は自分の飼い主であることをいかに自覚していくか、そしてどんな立場に立たされようと自分を守ってくださる絶対的な保護者であることを心に焼き付け、さらに何があっても心の揺らがぬように自分を律していくかが重要なポイントになるわけです。

身も心も捧げると誓ったからといって、捧げちゃったんだから何も考えずにただご主人様に従うだけで後はすべてお任せコースでは、真の「服従」は手の届かない宇宙の彼方にあるだけなのです。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、このへんで本題に入りましょう。

S男性に真剣に考えていただきたいのは、自分の奴隷が持つ特質（性格的な長所と短所）をいかに把握するかということと、どのように導いていくかということです。

誰にでも当てはまるというわけではありませんが代表的な例をあげて説明いたします。

M女性の持つ特質として、しっかりとした自分の考えや意見を持つことができ、それを的確に表現することができる長所を持つ方が多いようです。

ただし、その発想が意外に短絡的で、行動もかなり衝動的であるというオマケが付くわけですが。

ノーマルな人を見ると明るい自己中心タイプ、つまりわがままなんです。

じゃあ、それをどんな風にしてやればいいんでしょうか。  
わがままと治させる、いえいえ、そうじゃないんです。

短絡的な発想や衝動的な行動？ それも違います。

その根元にあるのは際限なく落ち込んで、自分を追い込んでいく考え方にあるのです。

暗～い性格だとドツポにはまったまま出てきませんが、けっこう明るくて楽観的だったりするもんだから最後まで落ち込む前にポンと飛んじゃうんです。

それが結果的に短絡的だったり衝動的だったりすることにつながるわけです。

要は飛んでしまうような追い込み方を自分自身でしないように変えてあげることができればいいのです。

ごく基本的なパターンとしてこんな例はいかがでしょうか

「あ～、どうしてこんなに忙しいんだろう。」

「えっ、これだけで手一杯なのにさらに他のこともしなくちゃいけないなんて・・・」

「どうしてみんな帰っちゃうの～、誰か手伝ってくれてもいいじゃない・・・」

こういうとき、適当に手を抜いたり、頑張ったんですけど終わりませんでしたといって謝ればいいのか、なんていう発想はM女性にはできない芸当です。

こうなればなにがなんでもやり抜いてみせるとするか、できないものはできないといって思い切り喰ってかかるかでしょう。

どちらにしてもフツフツと不満が蓄積されていくわけです。

こんな時どうすればいいのでしょうか。

ご自分で考えることが大切なのですが、とりあえずこんな模範解答はいかがでしょう。

こんな時は、まずご主人様の顔を思い浮かべるように寝ます。

つぎに、よく考えてどうしても無理ならばきちんと断り、できる範囲ならばやりとげることにする。

判断基準は無理なことを引き受けてしまっただけで他人に迷惑をかけること。

言い換えれば、ご主人様の持ち物として恥ずかしくない態度と行動をしなければならぬということです。

奴隷が他人に後ろ指をさされるということはご主人様がそうされるのと同じことなのだというのをしっかりと教えてあげることが大切なことなのです。

ご主人様の物であるという自覚が日常生活においても切り離すことのできないものであることをしっかりと把握させなければなりません。

こうして自己中心的な発想から、ご主人様を意識した奴隷としての発想へと上手に転換してあげてください。

Sは縛って叩いて突っ込んでのSだ！タイプのご主人様に「24時間奴隷の自覚を持て」といわれても、そんなのは無理よと心の中でベロを出されるのはしかたのないことなのです。

そして「支配と服従」の完成は、終着駅ではなく出発点だということを感じていただければ幸いです。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

[karma@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:karma@mvc.biglobe.ne.jp)